

「ニシンの子を“数の子”と呼ぶのはなぜ？」

校長 辰田 幸敏



正月の祝膳に「数の子」を用いるようになったのは室町時代からと言われている。1697年(元禄10)に出版された『本朝通鑑』は、正月に数の子を食べる理由について、「当今、わが国の習わしとして、年の初めにどの家でも数の子をお祝いの食べ物としてしているが、それは子孫繁多の縁起を祝ったものである」と述べている。

数の子はニシンの子(卵)で、室町時代には「こずこず」と呼ばれていたが、「来ず来ず」と同音で縁起が悪いので「くるくる」(来る来る)と呼ぶようになった。

そして、江戸時代になると「数の子」と呼ぶようになる。それはニシンを別名「カド」と呼ぶところからきているようである。東北地方や北海道では昔からニシンのことをカドと呼んでいる。このカドという呼び名はアイヌ語に由来すると言われているが、ニシン=カド、その子どもなので「カドの子」、それが訛って「カズの子」(数の子)になったと考えられている。

私は数の子が大好きで、わが家では毎年正月に縁起物の数の子を食べる習慣が続いている。今年の元旦も大根、白菜、人参、里芋、ゴボウ、カマボコ、きざみ昆布、凍り豆腐など具だくさんの雑煮(島原具雑煮)と一緒に数の子を美味しくいただいた。

新任の先生をお迎えしました！

新任の田中 聡と申します。諫早出身で、剣道の経験があり、保育や介護関係の仕事を経て、本校にお世話になることになりました。授業は現代社会と世界史を受け持ちます。

生徒の皆さん、毎日を一笑懸命に過ごして楽しい学校生活を送りましょう。



田中 聡 先生



中原 均 先生

皆さん、よろしくお願ひします。私は昨年12月海上自衛隊を定年退職し、本校の事務職員として新たな一歩を踏み出しました。

「教育」という尊い職場で、勤務する機会を得て感慨無量です。生徒の皆さんの無限大の可能性を信じて応援します。

「情熱」と「個性」をもって最後までやり遂げましょう。

新たな年を迎えて - 「自励集会」から

1月8日(水)、新たな年の節目となる自励集会を行いました。昨年度のスローガン「佐世保の実業から、長崎県の佐実へ」を打ち出してから2年、甲子園出場や各部活動の全国大会出場等、本校も大きく成長を遂げています。

今年度は「いきいき、のびのび、こつこつ」というスローガンのもと、毎日を明るく過ごす中で、一つひとつの成功体験を重ね、夢や希望を実現させて欲しいと校長先生から訓辞がありました。高校生活3年間という限られた時間の中で一人でも多く「いきいき、のびのび、こつこつとがんばる佐実生」が育ってくれることを期待します。

「新年度に向けて・・・」 - 各学年部長から

★1学年部長 尾形 知恵美

平成26年が始まりました。入学時に立てた高校生活の目標達成への道は、進んでいるでしょうか。順調に進んでいる道、立ちはだかる壁に歩みを止めている道、行き先を迷い思案している道、それぞれでしょう。

年新たに、心新たに、今一度、出発です。

★2学年部長 中濱 儀博

2年生の皆さんにとっては、進路決定の年がスタートしました。「初め良ければ終わり良し。終わり良ければすべて良し」と言いますが、スタートが肝心です。

高校生活最後の年を、素晴らしい1年にしましょう！

★3学年部長 川淵 光弘

社会では、常に最高の努力が求められ、評価される厳しさがあります。のんびりと構えている暇はありません。今の自分自身の甘さに活を入れ、心・技・体ともに整える準備を怠りなくしたいものです。

社会は、貴方たちの「努力する姿勢」に期待をしています。

卒業・進級に関する規定について (お知らせ)

いよいよ1月も終わり、卒業・進級が話題となる時期になってきました。3年生は1月28日から、卒業を見据えた高校最後の定期考査がありました。1月21日には、187名全員が予定通りに卒業できると信じています。そして、1・2年生も学年最後の定期考査が2月24日に控えています。今までに身に付けてきた知識・技量を遺憾なく発揮する時がやってきました。何事にも諦めず、時間を有効に活用し、主体性と計画性を持った取り組みができることを期待しています。

本校の「進級・卒業等に関する諸規定」は、次のようになっていますのでお知らせしておきます。

次項のいずれかに該当する場合は、原則として進級・卒業が認められません。

- ① 当該学年における欠席日数が、出席すべき日数の3分の1を越える者
- ② 年間の授業出席日数が授業実施時数の3分の2に満たない教科・科目がある者
自動車工学科で、一種養成指定基準時間に満たない者
- ③ 学年成績が30点未満の教科・科目がある者
- ④ 休学中の者
- ⑤ 校納金未納の者